

東日本大震災から7年へ さらなる復興を目指して
失語症のある人が元気に暮らせる街をつくろう

LIVING WITH APHASIA IN OUR COMMUNITY

失語症全国大会インいわて

第32回 日本失語症協議会
第7回 失語症デイ振興会

日 時: 2017年 11月4日土

9時30分~16時30分 (9時~受付開始)

会 場: 盛岡市民文化ホール・大ホール

参加費: 1,500円 (学生1,000円) ※別途登録料500円
が必要です

主催: 失語症全国大会インいわて実行委員会 共催: NPO法人日本失語症協議会 NPO法人失語症デイ振興会

後援: 厚生労働省(予定)、岩手県、盛岡市、岩手県医師会、盛岡市医師会、盛岡市歯科医師会、岩手県看護協会、岩手県社会福祉協議会、盛岡市社会福祉協議会、日本言語聴覚士協会、日本コミュニケーション障害学会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、岩手県言語聴覚士会、岩手県理学療法士会、岩手県作業療法士会、日本脳卒中協会、岩手県リハビリテーション支援センターいわてリハビリテーションセンター、盛岡南部地域リハビリテーション広域支援センター南昌病院、盛岡北部地域リハビリテーション広域支援センター東八幡平病院、NHK厚生文化事業団、岩手日報社

問い合わせ先

失語症全国大会インいわて実行委員会 【事務局】デイサービス言葉のかけ橋 担当: 佐藤
☎ 019-651-1017 fax 019-651-1010 ☐ d.s-kotoba@coral.plala.or.jp

失語症全国大会インいわて開催にあたって

大会長 堀間力夫 実行委員長 佐藤誠一

全国の失語症友の会の皆様、関係者の皆様、このたびNPO法人日本失語症協議会とNPO法人失語症デイ振興会の共催により、岩手県盛岡市で失語症全国大会を開催することになりました。

今大会は、「東日本大震災から7年へ さらなる復興を目指して 失語症のある人が元気に暮らせる街をつくろう LIVING WITH APHASIA IN OUR COMMUNITY」というテーマを掲げ、被災地から全国の皆様にメッセージを届けたいと思います。被災を乗り越えて岩手、宮城、福島で元気に暮らしている失語症のある方3名の体験発表と震災を機に生まれた被災地の失語症友の会の紹介、また、脳梗塞を経験された関啓子先生、国際失語連合イギリス大会に出席された吉野眞理子先生、そしていつも私たちを応援して下さっている大田仁史先生による講演、さらに当事者や地域活動を実践されている方たちによる「これから失語症のある人のための地域支援を考える」というテーマのシンポジウムなどのプログラムを企画しました。

制度が目まぐるしく変化しているこの頃ですが、失語症のある人が決して孤独になることなく、一人ひとりに相応しい生活を送ることができる地域づくり・街づくりを皆様と一緒に考えていきたいと思います。

被災地に足を運んでいただくことがなによりの復興の励ましです。全国の皆様、ぜひ岩手にいらしてください。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

プログラム

●開会セレモニー	9:30~10:00
●行政説明	10:00~10:15
「失語症者向け意思疎通支援者養成事業について」	
村山太郎氏(厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室 室長補佐)	
●盛岡失語症友の会と言葉のかけ橋の仲間たちによる音読劇	10:20~10:40
「水戸黄門 ご老公、みちのく岩手で…?」	
●講演 I (司会:東北文化学園大学 神山政恵氏)	10:50~11:20
「脳梗塞により発話困難を経験したセラピストとして伝えたいこと」	
関啓子氏(言語聴覚士 三鷹高次脳機能障害研究所所長／神戸大学大学院保健学研究科客員教授)	
●体験発表・友の会の紹介(司会:青森慈恵会病院 川田悦子氏)	11:30~12:00
「東日本大震災を乗り越えて～失語症とともに生きる」	
●ミニコンサート・一緒に歌いましょう!	12:40~13:00
盛岡第二高等学校音楽部の皆さん	
●講演 II (司会:NPO法人日本失語症協議会常任理事／東京都立府中療育センター 山本弘子氏)	13:05~13:30
「国際失語連合 第1回イギリス大会に参加して」	
吉野眞理子氏(言語聴覚士 筑波大学人間系教授)	
●市民公開シンポジウム(司会:NPO法人失語症デイ振興会／デイサービス言葉のかけ橋 佐藤誠一氏)	13:35~15:10
「これからの失語症のある人のための地域支援を考える」	
失語症当事者 失語症者家族 失語症者のための地域活動実践者	
●一緒に体操しましょう!	15:10~15:20
吉田悟志氏(作業療法士 リハヴィレッジいわて訪問看護ステーション)	
●講演 III	15:20~16:00
「今日も元気か、笑顔はあるか」	
大田仁史氏(医師 茨城県立健康プラザ管理者／茨城県立医療大学付属病院名誉院長)	
●懇親会(ホテルメトロポリタンニューウイング)	18:30~

講演Ⅰ 「脳梗塞により発話困難を経験したセラピストとして伝えたいこと」

関啓子氏 (言語聴覚士 三鷹高次脳機能障害研究所所長／神戸大学大学院保健学研究科客員教授)



私は失語症や半側空間無視(USN)などの高次脳機能障害のリハビリテーションの臨床・研究・教育を35年にわたって行ってきたセラピスト(言語聴覚士ST)です。言語学を学んでいた大学時代の失語症者との出会いを契機に、STを天職と確信し、精進してきました。2009年7月、神戸大学教員として単身赴任11年目、各方面での活動の絶頂期に勤務地神戸市内で脳梗塞を発症し、後遺症として左片麻痺およびUSN・発話困難をはじめ専門領域としていた多彩な高次脳機能障害が現れました。その後の懸命なリハビリのおかげで、8年後の現時点では利き手の左手麻痺と軽い高次脳機能障害が残っています。今回で2度目となる本講演では、前回よりグレードアップしたスライドで私の脳梗塞を概観した後、最も対応に苦労した発話困難につき、これを経験した当事者としてまたセラピストとして気づいたことを伝えたいことを述べる予定です。

体験発表・友の会紹介「東日本大震災を乗り越えて～失語症とともに生きる」

東日本大震災を乗り越えて元気に暮らしている岩手、宮城、福島に在住の3名の失語症のある方が体験発表をします。また震災を機に生まれた被災地岩手県気仙地域の失語症友の会を紹介します。



越田恭輔さん (岩手県大槌町吉里吉里、現在は盛岡市)

インドネシアなどで漁師をしていました。2010年に船の中で脳出血を起こし、右半身麻痺と失語症になりました。リハビリ入院中に大槌町の家が津波で流され、家族を亡くしました。今は盛岡市に住み、言葉のかけ橋に通つて言語リハビリに励んでいます。温泉や旅行が大好きです。



黒沢千晶さん (仙台市若林区)

2008年6月に脳梗塞で右半身麻痺と失語症になりました。震災で家は大規模半壊し新しく建て替えました。今は就労支援施設に通い、できるだけ家族以外の人と交流し、お話を聞く機会を多くしようと思っています。毎日がリハビリです。これからも明るく生活をしていこうと思っています。



坂本一夫さん (福島県浪江町、現在は郡山市)

システムエンジニアの仕事をしていました。2009年4月脳梗塞を起こし、失語症になりました。2011年3月11日の原発事故により県内4ヶ所を避難し、元の浪江町の我が家に帰らず郡山市に新居を建てました。現在は友達も出来て時々コーヒーを飲みに出かけます。(郡山失語症友の会)



気仙失語症友の会 はまりやすペヤ (大船渡市、陸前高田市、住田町)

震災時に孤立しがちだった失語症者。その失語症者同士の横のつながりを作ろうと交流会が行われ、そこで出会った当事者や家族が中心となり、震災の翌年に『はまりやすペヤ』は設立されました。以来、年に9回の定例会を開催し親睦を深めています。



友の会ステージ音読劇「水戸黄門 ご老公、みちのく岩手で…？」

盛岡失語症友の会では有志がクリスマス会などでいくつかの音読劇を披露してきました。今回はお馴染みの「水戸黄門」を皆様にお楽しみいただきたいと思います。サプライズもご期待ください。

一緒に体操しましょう！



皆様、岩手によこそ！
作業療法士の吉田悟志、少林寺拳法五段です。短い時間ですが、元気いっぱい、笑顔で、楽しく身体を動かしましょう!!

ミニコンサート・一緒に歌いましょう！



全国合唱コンクールでたびたび入賞している盛岡第二高等学校音楽部の歌声をお楽しみいただきます。また、懐かしい唱歌や復興ソングなどを皆さんと一緒に歌いましょう。



講演Ⅱ 「国際失語連合 第1回イギリス大会に参加して」

吉野眞理子氏 (言語聴覚士 筑波大学人間系教授)

今年3月5日・6日の2日間、イギリスのバーミンガム近郊、Warwick大学において、国際失語連合 (Aphasia United) の第1回大会が開催されました。国際失語連合とは、失語のある人々、失語の研究者、失語の臨床家それぞれの団体を結びつける国際的団体で、2012年に設立されました。初めての大会には、開催国イギリスを始めオーストラリア、ニュージーランド、ハンガリー、スロベニアなどから、65名の失語のある人々、23名の介助者、21名の専門家、16名の学生が参加しました。日本からは私を含め4名の言語聴覚士が参加しました。大会プログラムは、失語のある人々の体験談、活動やグループの紹介、失語への認識を広めるための取り組み、機器やネットを活用したセラピー、芸術活動、研究、話し合いなど多彩なものでした。なにより積極的に生き生きとした失語のある人々が印象的でした。この様子をご報告したいと思います。



講演Ⅲ 「今日も元気か、笑顔はあるか」

大田仁史氏 (医師 茨城県立健康プラザ管理者／茨城県立医療大学付属病院名誉院長)

これは天才ST遠藤尚志さんの言葉です。失語症者の在宅ケアがうまくいっているかを遠藤さんは①今日も元気か、②その人は笑うか、③考え方の範囲は広がっているか、④ほんとうに何も話せないのか、⑤言語障害の区分けの5つの項目でチェックしていたそうです。

たしかに言葉が不自由でも活動的で周囲に笑いの花びらをまき散らす人がおられます。そのような人は失語症者の集いでも人気者ですし、周りの人を元気にしてくれます。

一人で笑う人はいませんし、元気な人でないと心から笑うことはできないでしょう。失語症の人に限らないのですが、障害をおった人たちは絶対仲間が必要です。仲間ということで孤独感から解放されることもあるし、将来への関心が湧いてくることもあります。共に支え、支え合い、笑いの飛び交う仲間のいる場所を増やしましょう。その輪を広げていきましょう。

市民公開シンポジウム「これからの失語症のある人のための地域支援を考える」

医療から介護への移行が急速に進み、これまで以上に生活期リハビリのあり方を考えなければならなくなきました。失語症のある人たちや家族は地域でどんな問題を抱えているのか、また地域包括ケアの時代の今日、失語症のある人をどう支援すればよいのか、当事者、家族、地域活動を実践している言語聴覚士等のシンポジストとともに、これからの失語症のある人の地域支援について考えていきたいと思います。



黒澤武史氏

「当事者の立場から」

失語症当事者／若い失語症者のつどい
初代会長



中村太一氏

「大分でSTが始めた失語症デイ」

言語聴覚士／コミュニケーションデイ
サービス言の葉代表



岡田理砂子氏

「家族の立場から」

失語症者家族／青森失語症友の会「ち
よちゃんの会」代表



宇野園子氏

「失語症者向け意思疎通支援者養 成事業と和音の活動」

言語聴覚士／NPO法人言語障害者の社
会参加を支援するパートナーの会和音
代表



田中加代子氏

「失語症者家族が始めた失語症者 のための地域活動支援センター」

失語症者家族／地域活動支援センター
トークゆうゆう代表



黒羽真美氏

「これからの地域言語聴覚療法」

言語聴覚士／日本言語聴覚士協会理事
介護老人保健施設マロニエ苑